

# 西おきたま 米づくり情報No.1

令和5年3月15日  
西置賜農業技術普及課

## 「いきいき苗」と適期田植えで初期生育確保へスタートダッシュ！

適期田植えは5月15日～20日、田植え日から逆算して育苗計画を立てましょう



今年は融雪が早く、春作業の準備が始まっています。

いい苗をつくるためには、苗種ごとの特徴を理解したうえで、天候に合わせて、ひとつ一つの作業を丁寧に行うことが重要です。「苗半作」の言葉どおり、まずは「健苗づくり」から今年の米づくりを始めましょう。

### ○苗の種類と特徴

苗種	葉数 (枚)	播種量 (乾籾g)	育苗日数 (日)	必要箱数 (箱/10a)	特徴
密播苗	2.0	240～300	15～20	約10枚	老化苗になりやすい。育苗期間の延長が困難。
稚苗	2.5	150～180	20～25	約20枚	早期移植に適する。苗が老化しやすい。
中苗	3.5	80～120	30～35	約30枚	中山間向き。育苗期間が長い。育苗期間の延長が可能。

### 【種子予措】

#### ○塩水選

- ・塩水を作る際の比重は、うるち 1.13、もち 1.08で行います。塩水選後はきれいな水でよく洗いましょう。

	比重	水10ℓ当り食塩の量(目安)
うるち	1.13	2.1kg
もち	1.08	1.3kg

#### ○種子消毒

##### ☆薬剤処理の場合

- ・必ず使用方法（希釈倍数、使用時期、使用方法）を遵守しましょう。
- ・薬液の温度が低いと効果が劣る場合があります。10℃以上の水温を確保しましょう。

##### ☆温湯浸法の場合

- ・58℃20分間又は60℃15分間で行います。浸漬後すぐに冷水で冷やし、水漬けに入ります（古い種子やもち品種は発芽率低下の可能性がります）。

ラベルで確認！

◎作業の前に「比重計」や「卵」などで確認を！

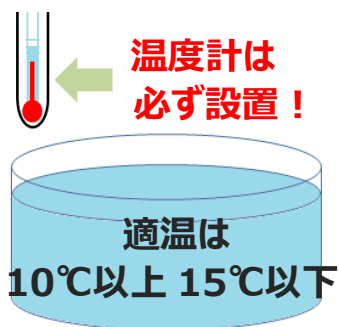
## 雑草イネの発生に注意！

穂を触ったら籾がポロポロ落ちる、玄米に有色素米が混入した場合は雑草イネの可能性大！

～雑草イネが疑われる場合は普及課 JA へ相談を～

○浸種 ～温度計で温度の確認をしましょう～

- ・浸種開始時の水温が低すぎると、発芽率が低下することがあります。必ず水温は10℃以上（ただし15℃未満）になるよう調節しましょう。
- ・水温10～15℃で8～12日間程度。積算水温で120℃（モチは100℃）をしっかりと確保します。播種日から逆算して水漬けを始めましょう。
- ・2～3日毎に水交換を行い、袋の位置（上下）を入れ替えて吸水ムラを防止します。
- ・浸種期間が長くなるとばか苗病（高温で発生が助長される）のリスクが高まるため注意が必要です。



○催芽

- ・催芽は、30～32℃で20時間を目安とし、ハト胸状態を確認して終了しましょう。品種により催芽にかかる時間が異なるため、芽の揃い具合をこまめに確認しながら作業を行いましょう。



【播種・育苗で使用する資材について】

- ・田植えの計画に合わせて逆算して播種日を決めましょう。
- ・使用する育苗資材の特性をよく理解し、自分の育苗方法に適したものを使用しましょう。

【土づくり】

- ・おいしいお米を生産するためには、「土づくり」をしっかり行い根の活力を高め、必要な時期に十分な養分を吸収できるイネづくりが重要です。
  - ・土づくり肥料や有機物の積極的な散布を心掛けましょう。
- ～堆肥を使用する場合は、種類や施用量に応じて基肥は減肥しましょう～
- ・根圏耕土層を改善するため、耕深は15cmを確保しましょう。

【全量基肥の適正使用・過剰施肥防止について】

- ・全量基肥肥料は種類も様々なため、使用する肥料の溶出パターンを把握し、「基肥量は足りているか？」、「追肥は適量か？」等を確認することが大切です。
  - ・窒素量は基準より控えめとし、地力の高い圃場では使用をしないなど、十分な検討を。リン、カリが足りない場合には、土づくり肥料、カリ追肥で補いましょう。
- ～施肥量を増やすと～
- ⇒籾数過剰や登熟後半の窒素吸収量が増加し、登熟不良による品質低下や玄米粗タンパク質含有率の高まりによる、食味低下の原因に！

## 見直そう！ 農業機械作業の安全対策！

作業前には、機械の点検、危険箇所のチェック等を行い、農作業事故をなくしましょう。